

WFPTによる舞踊経験者の パーソナリティ特性について

林信恵・中島美智子

〔はじめに〕

長い間あるスポーツ活動に関わることによってステレオタイプのパーソナリティを持った集団が出来上ると言われるように、身体運動特性とパーソナリティの研究については、多くの研究が行われている。同様に舞踊とパーソナリティに関して特にアメリカではロールシャツハテストやWFPT等を用いて芸術性、創造性に対するポテンシャルの研究が行われており、日本ではダンスの指導過程におけるパーソナリティとパフォーマンスの関係を扱ったものがある。本研究ではWelsh Figure Preference Test (WFPTという)を用いて、舞踊経験者のパーソナリティ特性を把握することを目的とする。

本テストはNorth Carolina大学のG. Welsh博士によって開発されたもので、400個の抽象的な図案から構成されている。被験者はそれぞれの図に対して好きか嫌いかで判定するようになっている。読解や判定に文字を使わないので年齢や国等に関係なく調査でき、さらに被験者が正しいとか良い答えを出そうと作意的に判定する余地がなく客観的なデータが得られる。36の尺度が測定出来るが、研究の内容によって必要項目を抽出して調査することが可能である。特に過去の研究結果より芸術的素質や創造性に対するポテンシャルを調べるには信頼性が高いと言われている。

〔方法〕

- ①被験者；40名の舞踊経験者で現在舞踊活動を行っている者（内訳バレエ15名，モダンダンス15名，モダンジャズ10名）
- ②実施方法；テスト冊子と調査用紙を被験者に渡し後日回収。
- ③期日；1992年4月～5月
- ④結果の処理；本研究では特に舞踊経験者のパーソナリティ特性に必要なと思われるRA, MV, WIN, WOR, FM, BWの6つのスケールについて各スケール毎に個人の組点を求め、その後各種舞踊経験者毎に平均と標準偏差を算出し、平均値の差の検定をした。次にWINとWORをもとに個人のWelsh Modelをプロットし、タイプを把握した。

〔結果と考察〕

表Iは各舞踊経験者におけるスケール毎の平均値と標準偏差，および差の検定を示したものである。参考のために大学の個人スポーツ（体操，新体操，陸上，剣道，柔道）とチームスポーツ

（サッカー，バスケットボール，ハンドボール，ソフトボール）の値を付記した。各スケール毎にその結果をみると，芸術性，創造性スケールであるRA, BWに関しては，モダンとジャズグループが高く，バレエグループとの間に1%水準で有意差がみられた。バレエグループはスポーツグループと類似した値を示した。次に独創性，新奇性，個性等を示すWORについてもモダンとジャズグループが高くバレエグループとの間に1～5%の有意差があった。動きを感じる能力即ち動きの感覚尺度MVにおいては舞踊経験グループには差がなく，むしろチームスポーツとの間に5%の有意差がみられた。次に論理性，抽象的思考，知性等を示すWINにおいてはモダンとジャズグループが高く，バレエグループはスポーツグループと類似した値を示し両グループの間に5%の有意差がみられた。FMスケール即ち女性度をあらわすスケールにおいては，舞踊経験グループ間に差はなくモダンとジャズグループとスポーツグループ間に1～5%の有意差が認められた。

Table I 各種舞踊グループ間のスケール平均と差の検定
()内は、SD

	Ballet	Modern	Modern Jazz	I.S.	T.S.
N	15	15	10	45	57
Age	24.5	29.1	29.2	21	21
舞踊歴	19.5	11.5	16.5		
RA	22.33 (10.83)	32.66 (9.03)	33.40 (9.59)	22.33 (10.44)	19.8 (10.38)
BW	21.47 (10.34)	31.47 (7.84)	34.00 (11.35)	20.82 (11.62)	20.85 (11.62)
WOR	32.00 (15.3)	45.53 (12.54)	45.80 (14.39)	30.34 (15.99)	29.61 (14.92)
WIN	30.40 (4.83)	34.26 (4.62)	34.00 (3.80)	31.41 (6.10)	30.49 (6.57)
MV	31.67 (5.22)	31.26 (5.53)	33.20 (3.67)	30.66 (4.02)	28.59 (4.25)
FM	34.87 (9.69)	40.20 (9.69)	39.10 (9.54)	30.93 (10.04)	30.85 (9.44)

※ P<0.05 ※※ P<0.01

以上の結果をみると創作創造活動が中心となるモダン，ジャズグループは，主として伝統技術の習得と作品再演，さらに集団の規範に従った従順さが強く要求されるバレエグループに比して，創造性，芸術性，独創性が高く个性的であると言える。本研究のバレエグループは3～4才から始めて20年近くずっとバレエのみを続けてきたもので

Table II 各スケール間の相関 (全グループ)

	RA	MV	WIN	WOR	FM	BW
RA						
MV	0.066					
WIN	0.223 **	0.020				
WOR	0.913 **	-0.120	0.180			
FM	0.677 **	-0.090	0.070	0.779 **		
BW	0.912 **	-0.030	0.170	0.945 **	0.759 **	

* P < 0.05 ** P < 0.01

Table III 各スケール間の相関 (モダン・ジャズグループ)

	RA	MV	WIN	WOR	FM	BW
RA						
MV	0.219					
WIN	0.237 **	-0.220				
WOR	0.788 *	-0.027	0.254			
FM	0.467 *	-0.095	0.189	0.485 **		
BW	0.862 **	0.126	0.156	0.695 **	0.678 **	

* P < 0.05 ** P < 0.01

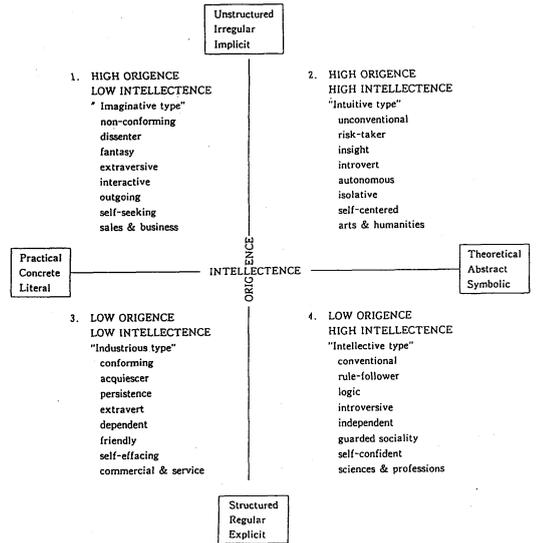
もちろんパーソナリティ形成には複雑な要因が考えられるが、バレエの要因もその一要因と考えられるのではないだろうか。現年令段階ではむしろ個人スポーツグループと類似した特徴があるが没個性から創造的な芸術家へと転換するためにはさらに時間の経過を必要とするのだろうか。

次に表 II と III は各スケール間の相関をあらわしたものであるが、これを見ると RA, BW, WOR, FM間にそれぞれ 1%水準の相関があり、芸術性、創造性、独創性、女性度間には高い関連性があると言える。

運動を媒介とした芸術である舞踊の場合、運動感即ち MV と RA, BW, WOR間に相関がみられるのではないかと予想したが本研究では認められなかった。しかし表 II と III を比較すると統計的な差はないが、モダンとジャズグループの場合、MV と RA, BW間の相関係数がやや高くなっていることからバレエよりもモダン、ジャズグループの方が創造性、芸術性と運動感が結びつく傾向があるとみられる。次に Welsh Model について述べる。

これは WOR と WIN との関係によって社会的態

Table IV Welsh Model とその特徴



度、認知様式、美的好み、気質などパーソナリティのタイプに関連する多くの特徴がみられ Welsh が 4 つの基本的な型に分類したものである (表 IV)。タイプ 1 は WOR が高く WIN が低い想像型といわれるタイプで協調性に欠け規則に従うのを嫌い空想的で外向性の特徴を有する。タイプ 2 は WOR, WIN とともに高く直感タイプといわれ、社会の因習に従わず冒険的で洞察力があり、自己中心的な特徴を持っている。タイプ 3 は WOR, WIN とともに低く、努力勤勉型といわれるタイプで、従順で協調性があり、規則に従いおとなしく粘りがあり外向性と親交性を合わせ持つ。タイプ 4 は WOR が低く WIN が高い知的タイプで、因習的で規則に従い論理的思考をし、社会に対して慎

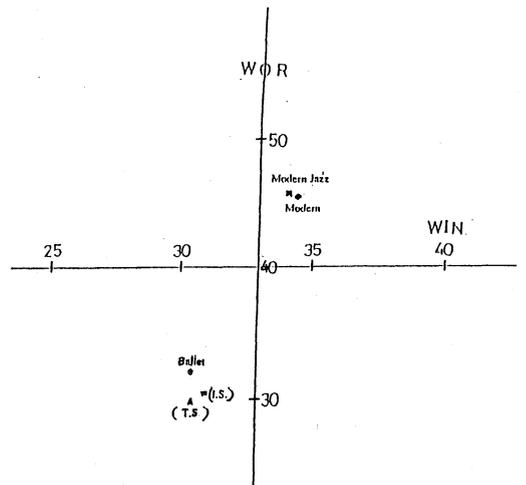


Fig. I 舞踊グループ毎の Welsh Model

重であるが自信をもっている。そこでこのWelsh Modelに各グループのWORとWINの平均値をプロットしてみると図Iの様になり、バレエグループはタイプ3に属しスポーツグループとよく似たパーソナリティタイプを示している。モダン、ジャズグループはタイプ2に属することがわかる。創造的活動が中心となるモダン、ジャズグループがタイプ2に属するのは納得出来るが、表現、芸術活動であるバレエがスポーツグループと同じタイプ3に属するのは何故なのだろうか。バレエでは創造活動以前に伝統技術の習得や集団の規範やルールに自己を適応させるという、スポーツと類似した活動の継続によって形成されるパーソナリティが出来上るのではないだろうか。しかしこの没個性的な技術習得過程から、創造的な個性への発展をとげるには時間の経過が必要とされるだろうし、おそらく限られた者しかその規範から抜け出すことは出来ないのではないだろうか。

参考文献

George S. Welsh; Preliminary Manual, Welsh Figure Preference Test, Palo Alto, California; Consulting Psychologists Press Inc, 1980.